

光星「歴史塗り替える」

3年ぶり センバツ 全国制覇 合言葉に

目指すは日本一。25日、10回目の選抜高校野球大会出場が決まった八学光星ナインは歓喜に沸く中、あえて大きな目標を口にした。

先輩たちが幾度も挑んで果たせなかった悲願。約2カ月後に迫る決戦に向けて気持ちを奮い立たせた。

【本記1面】



センバツ出場が決まり、氣勢を上げる光星ナイン＝25日午後3時半ごろ

午後3時すぎ、校長室で出場決定の連絡を受けた小野崎龍一校長は、中庭で待機していた硬式野球部員約60人のもとに駆け寄り「満場一致で出場校に決まったとの連絡が入った。おめでとう」と祝福。仲井宗基監督は「技術、人間性ともさらに鍛え上げて甲子園に行こう」と呼び掛けた。

八学光星は2014年夏に8強入りして以降、15年春、16年春夏、18年夏と4回連続で甲子園2回戦敗退。田村龍弘(現ロッテ)、北條史也(現阪神)らを擁して3期連続準優勝してからは約7年が経過した。

昨年の秋の県大会、東北大会では自慢の強打と堅守で堂々の優勝。しかし、東北王者として臨んだ同11月の明治神宮大会では、準々決

勝てなくて悔いながら攻撃や凡ミスも響いて敗退。甲子園で勝ち上がるための課題が浮き彫りになった。

「甲子園に行くだけではみなさん許してくれないと思う。私自身、これまであまり口にしたことはなかったが、今年のチームに関しては本気で全国制覇を目指す」。仲井監督は力強く語った。チームの特徴として攻守のバランスやチームワークの良さを挙げた。

勝ち進むためにはチーム全体の底上げが必要と分析し、具体的には投手力と長打力の向上が課題という。このため冬場、精力的にトレーニングを積んでお

り「まだまだ伸びしろはある」と手心を語る。

「全国制覇」は選手の間で合言葉になっている。制球力を武器にするエースの後藤丈海投手は、球速10キロアップを目指して練習に励んでいるといい「今年こそ優勝して光星の歴史を塗り替えるたい」。打線の要でもある武岡龍世主将は「強豪と当たると思っているので、自分たちらしい試合をしたい」と意気込みを見せた。

下山昂大選手(弘前四中出)は「地道な筋トレで体をつくってきた。青森県出身選手としてチームに貢献する」と決意を語った。

(月館慎司、大久保拓地)